

2 土鈴について

(1) はじめに

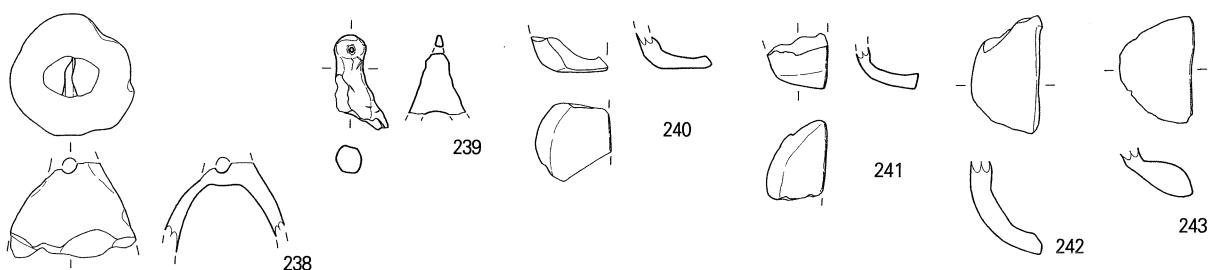
今回の調査において、新平遺跡F区の土器廃棄場より、古代に属すると考えられる土鈴が出土した。土鈴は一般に祭祀用具として位置づけられているが、用途など不明な点の多い遺物でもある。ここでは県内の土鈴出土例を集成し、分布や形態を把握することで土鈴の性格に近づこうと試みた。なお、本県における古代の土鈴については国生尚、下山信昭の各氏がすでに集成、分類しているところであり（国生 1992、下山1995）、ここではその内容を踏まえながら、更に新たな出土例を加えて述べていきたい。

(2) 新平遺跡出土の土鈴（第59図）

はじめに今回の出土遺物について概観してみる。

出土状況と時期 いずれも古代の土器廃棄場から大量の土器とともに出土している。当遺構は調査区の北側、新平丘陵から黒沢川に延びるF区のほぼ中央に位置しており、水田開墾による地形改変を受けているが、現況でも東に向かって緩やかに傾斜している。遺構を境として地山が黄褐色（IVa層）から青灰色（V層）の水成堆積層に変化しており、当遺構は旧河川の河岸部に形成されたものと理解している。また、遺物には磨耗が見られることから廃棄時の元位置を動いていないものと判断できる。遺構底面（遺物包含層直下）からは十和田aテフラ（To-a）と見られる灰白色火山灰が検出されており、ブロック状に分布しているところから二次堆積のものと捉えられる。遺構内からは縄文土器、石器も出土しているが極少量で、土師器、須恵器の古代土器が出土遺物の中心であり、その年代観（V-1 参照）および火山灰の堆積状況から遺構の構成時期は10世紀中葉から後葉に当たるものと考えている。なお、これらの土鈴も胎土・焼成が土師器のそれに酷似しており、同様の時期のものと考えている。共伴遺物の中には墨書き土師器壺の破片2点（「大」、1点は墨書き不明）、刻書き須恵器壺1点（刻書き不明）、と文字資料も見られ、また両面黒色処理の耳皿が出土している。

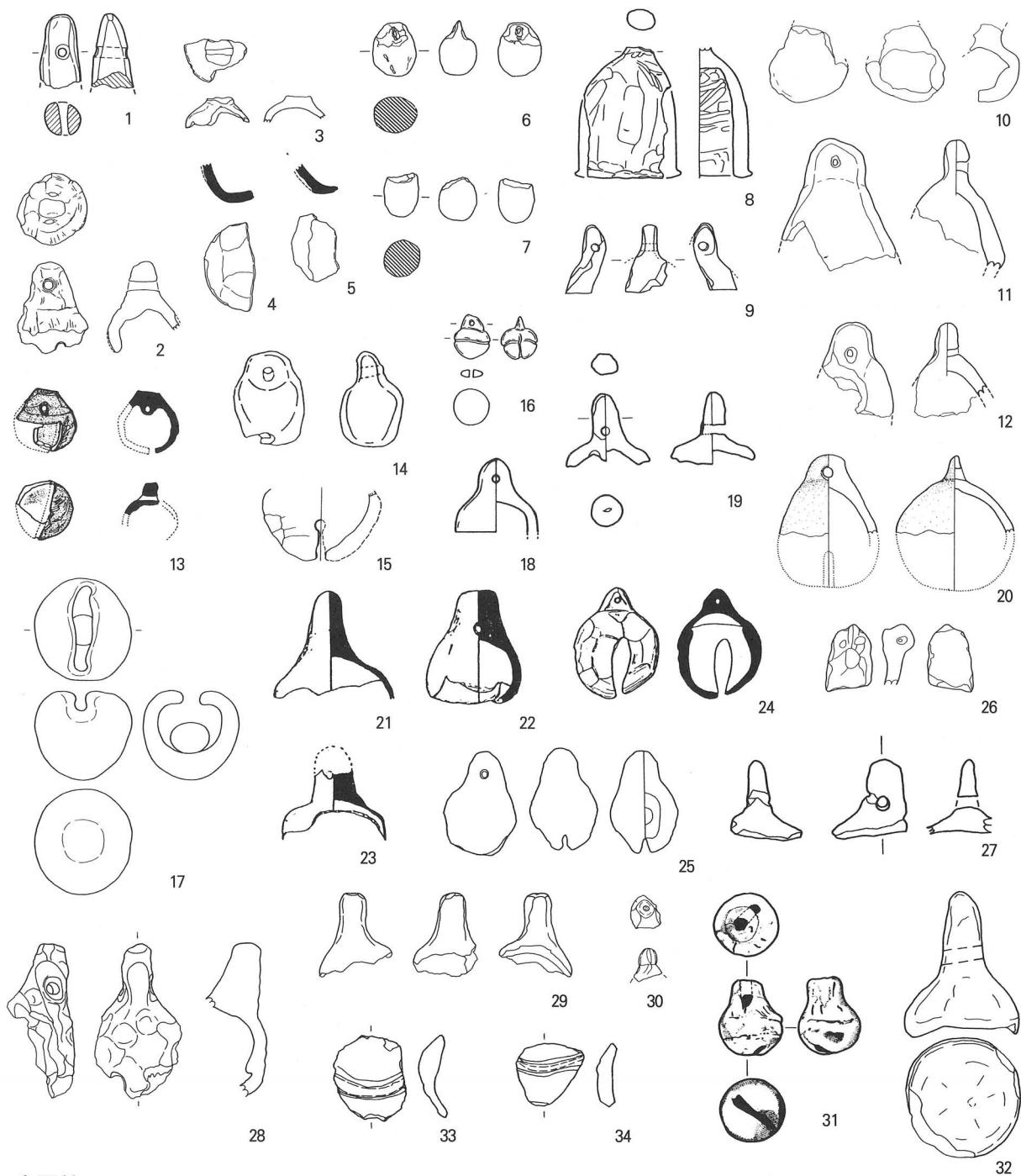
外見的特長 今回出土した土鈴はいずれも破片であり、紐部2点、体部4点の計6点であった。紐部は棒状で、そのまま穿孔するもの（238）と先端を指でつまみ出し扁平にした上から穿孔されるもの（239）がある。またこれらは穿孔の位置も異なり、前者は紐部の中央に、後者は頂部の扁平部に見られる。体部片にはいずれも鈴口と見られる平坦な面があり、また242は表面が薄黒く変色しており黒色処理が施された可能性がある。なお、これら体部片はミニチュア土器など別種の遺物であるかもしれない。成形方法は破片の為不明といわざるを得ないが、239に限定して言えばその破損状況より上部と下部を接合する二分割成形であろうと考えられる。表面にはいずれもナデ調整が観察される。



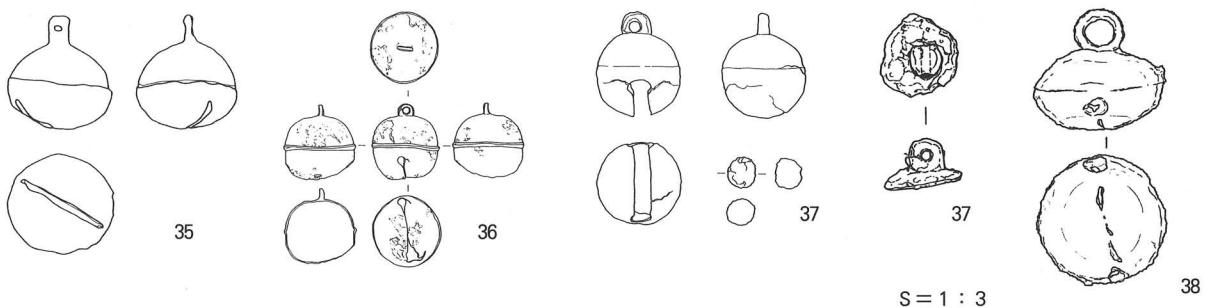
S = 1 : 3

第59図 新平遺跡 出土土鈴

土 鈴



金属鈴



第58図 岩手県 出土土鈴類集成

(3) 県内の出土例

次に本県の出土例について触れたい。第60、61図および第8表は岩手県内における古代土鈴および類似製品とその出土遺跡位置を示したものである。土鈴は完形の状態で出土することが少なく、各部位の破片であった場合当該遺物として認識、断定されることは非常に困難であり、またそれゆえ整理作業時に掲載遺物から除外される危険性も少なくないと思われる。その中で今回は報告書掲載遺物の中から土鈴、あるいは鈴形土製品として報告されているものに加え、形状からその可能性があると判断したものを各資料から転載している。今回集成した古代土鈴および鈴形土製品は26遺跡、43点に及び、そのうち完形のものは5点、破損品の中でも紐部の残存しているものは20点であった。出土遺跡の分布を見ると内陸部主要河川沿いに大多数が位置し、その中でも青森県境付近の県北部、矢巾および紫波の県央部、北上以南の県南部にまとまったグループを見出すことができ、それぞれの領域間には若干の空白域をうかがい知ることができる。遺物の時期は8世紀から12世紀初頭と奈良・平安時代のほぼ全域にわたっているが、それら時代間の分布や空間的な分布における形態の共通性はとりたててうかがえなかった。

出土状況 今回確認した土鈴類の出土状況の割合を見てみると圧倒的に住居跡からの出土が多く(16点)、出土例全体の実に35.7%に及んでいる。次いで今回の土器廃棄場(6点、14.3%)、溝跡(3点、7.1%)、工房跡(2点、4.8%)、堅穴状遺構(2点、4.8%)、井戸跡(1点、2.4%)と続き、残りは不明、あるいは遺構外からの出土(13点、30.9%)である。また、住居内の出土位置をさらに詳しく見てみると堆積土中12点、床面1点、土坑など付帯施設中2点、貼床内1点となっている。

成形・焼成方法 土師質のものと須恵質のものがある。だが、全ての遺物を実際に確認していないため、焼成方法に関してはその傾向は知りえなかった。同様の理由で成形方法についても記述は避けておくが、国生氏によると上部と下部を接合する「二分割成形型」と底部の方から紐部に向かって押し出すように成形する「一体成形型」に分けられるという(国生 1992)。二分割成形型は体部の中央に継ぎ目があるため、そこから破損しやすく、体部中央から上下を欠く例はまさにその状況を示しているといえよう。

形状 大きく中実のものと中空のものに分けられ、そのおおよそを中空のものが占める。中実のものは県内では3遺跡4点が確認されており、えてして中空のものより小型である。これらは更に、紐部を有するのみで体部には装飾の見られないもの(6, 7)と、沈線を用いることによって鈴を模して作製されたと見られるもの(16, 31)の2つに分けられる。前者は土錘とも考えられており、青森県六ヶ所村発茶沢遺跡において類似品を確認している。ちなみに発茶沢遺跡出土遺物も住居跡から出土している。また後者には鈴口を意図したとみられる沈線が下部に入り、また体部中央に金属鈴作製時の接合面を意識したような沈線も見られる。まさしく鈴の模造品として捉えられるものである。中空のものは内部に丸と呼ばれる玉を持ち、振ると音がする。しかし、残存状態が悪く内部の丸が確認されているものは3例に過ぎない。紐部の形状に着目すると棒状のものと、先端をつぶして平たくしたものがある。紐部には穿孔のあるものとないものがあるが、先端を平らにされたものには必ず穿孔がなされている。また紐部のないものもある。紐部はその名の通り、穿孔部に紐状のものを通して、土鈴を吊り下げて使用したと考えられることからついた名称であろうが、穿孔の有無が存在したということには土鈴の使用法が単純に吊り下げて使用したものでない可能性がある。手で持つて使用したのか。紐部のないものに関しては手の平で握って鳴らされたものと考えられる。体下部には鈴口と呼ばれる切れ目が入れられており、おおよそ真一文字に入れられることが多いが、両端が円状に肥大しているものもある(15)。

土鈴と鐸型土製品 8は二戸市門松遺跡から出土した鐸型土製品とされる遺物である。釣鐘型の形状で、欠損しているが上方には土鈴同様に紐部と見られる痕跡がうかがえる。当遺物は古代に属するものと報告されているが、縄文時代にも同様の製品があり、土鈴とされているものの下部を欠損した破損品にはあるいはこの種の遺物に類するものがあるかもしれない。参考までに掲載したものである。

(4) 金属鈴の出土状況

仮に土鈴を金属鈴（鉄鈴、銅鈴）の模造代用品として捉えた場合、金属鈴の使用例および遺物の出土状況からその使用法に近づける可能性があり、参考までに取り上げてみた。岩手県内で確認できたものは以下の5例であった。

鉄鈴の出土例 駒焼場遺跡（二戸市）ではⅢA-8住居跡床面より1点出土している。遺構の堆積土には十和田aテフラを混入する人為堆積層が見られ、10世紀以降のものと見られる。遺物は完形品で体部中央に接合痕が見られる。また泉屋遺跡（平泉町）では6号土坑堆積土中よりかわらけ、北宋錢などとともに出土している。体部、丸は欠損しており、紐部のみの出土である。共伴遺物などから14世紀中頃のものと考えられている。同じく平泉町の柳之御所跡では23SK83下層埋土中から出土している。当遺構はチュウ木、ウリ科種子が大量に出土しており、便所遺構の可能性がある。遺物は比較的大きな紐部を持ち、やや上からつぶされたような扁平な形をしている。体部中央付近には接合痕も見られ、鈴口両端には銹化がすんでいるものの円形に肥大していた名残が見受けられる。遺構は12世紀後半には埋められており、遺物もそれ以前のものと考えられる。

銅鈴の出土例 上野遺跡（二戸市）ではAF54堅穴住居跡のカマド脇に付設された土坑中より出土している。堆積土は上層に十和田aテフラの一次堆積が見られ、またロクロ使用土師器、須恵器が伴つておおり、9世紀代の時期が与えられている。また遺構内には放射状に炭化物および焼土が検出されており、本住居跡は焼失したものと解される。鈴は完形で体部中央に接合痕が盛り上がった状態で観察される。鈴口先端は円形に肥大している。また胆沢城（奥州市水沢区）ではSB3147建物跡を構成する柱穴⑤掘り方埋土から出土している。完形で中央に接合痕が見られ、共伴遺物には形代（刀形）などがあり、地鎮などの祭祀的行為が想定される。なおこれら2例の銅鈴は丸が残存しているがいずれも鉄製であるという。

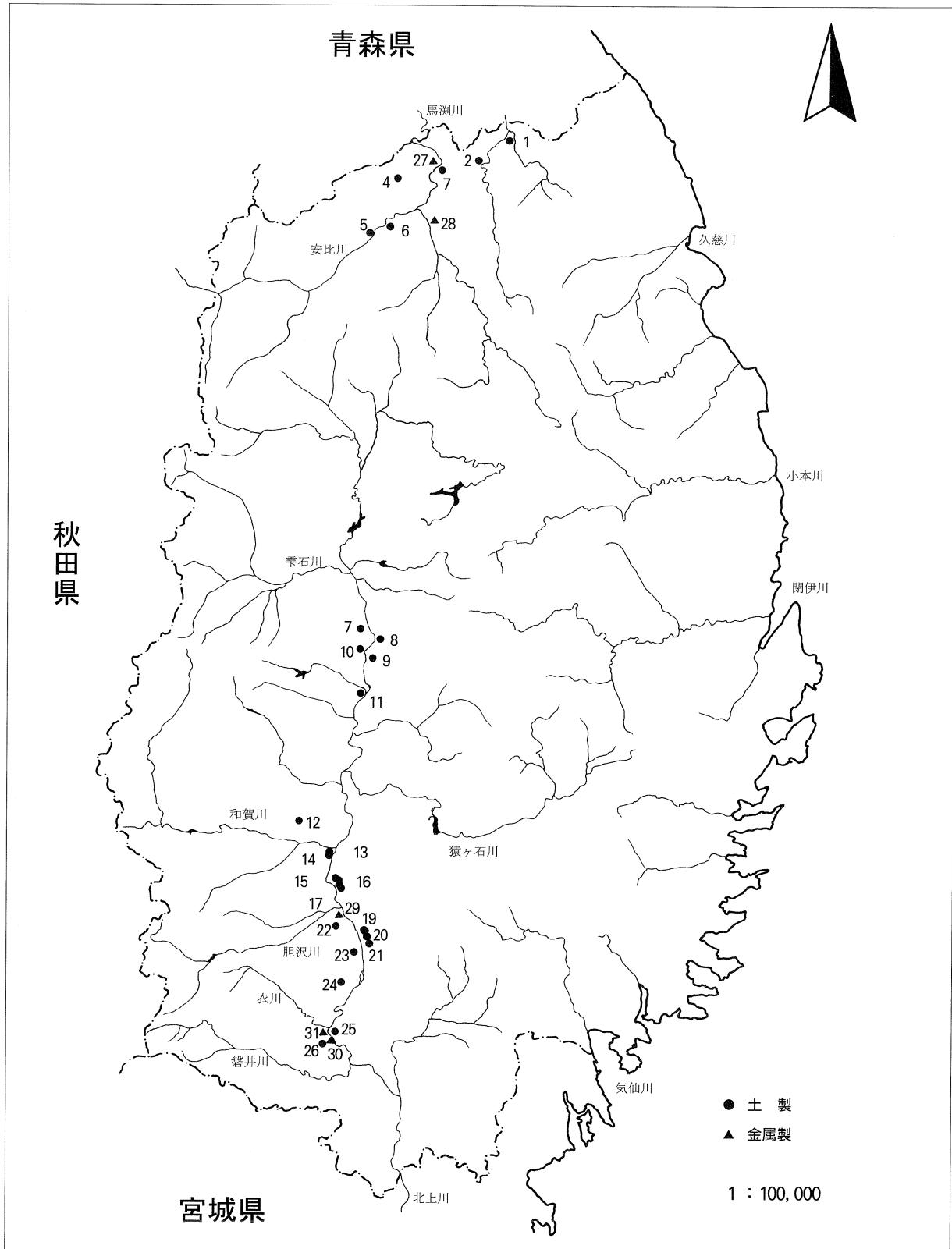
以上、堅穴住居跡から2例、掘立柱建物跡から1例、土坑から2例が出土している。5例と少例ではあるが、その中でも土製鈴同様に堅穴住居跡からの出土が大半を占めていることは興味深い。また、胆沢城での形代との共伴例、駒焼場遺跡での人為に埋め戻された住居からの出土例は鈴の地鎮め、魂鎮めなどの祭司的行為に伴う性格を改めて想起されよう。「埋納」という用途に言及した場合、鈴を模倣された土鈴には音というものがなく、音を発しない中実の鈴型土製品が少数で存在することもうなづけるのではないだろうか。

(5) おわりに

古代土鈴について出土状況および形態について概観してみた。しかし岩手県内に限定したこともあり、単なる資料紹介に従事してしまった。県外に例外は有れども土鈴はその出土数の少なさより一般的には量産性を有しない遺物であると考えられる。製作者個々人の感性に基づいて表現されたこれらの遺物には一見共通性を持つようでいて持っていない、あくまで模倣という行為において見られる共通性でしかなく、今回見られた出土例が集中する地域ごとにはそれらが反映されることはなかった。その中で形態の共通性や差異を論じることはほとんど意味をなさないことかもしれない。しかしその一方で今回地域を限定したことにより、その共通項あるいは違いが明白には浮き出なかっただけであ

る可能性も否定できず、今後さらに視野を広げて見てゆく必要性を痛感した。また、今回おもに形態という観点に終始してしまった感があるが、土鈴の性格を知る上でもっとも有効な情報は言うまでも無く出土状況であり、あくまでもこれを主軸に据え、形態との両面から検討しなければならないということを今後の反省としたい。

(横井)



第59図 岩手県 土鈴類出土遺跡

第8表 岩手県内における土製・金属製鉢および類似土製品出土遺跡

※ それぞれ○：完存、△：一部残存、×：欠損、-：部位が存在しない、をあらわしている。

土鉢

地図番号	挿図番号	市町村名	遺跡名	報告遺物名	出土位置	残存部※	時 期	備 考	文献
1	1	軽米町	大日向II	不明土製品	S II 01住居跡	○ × ×	10世紀後半～11世紀前半		文献1
2	2			土 鉢	遺構外	○ △ ×			
3	3		自角子久保VI	土 鉢		△ △ ×	10世紀中葉（集落年代）		文献2
4	4			土 鉢		× △ ×		須恵質	
5	5			土 鉢		× △ ×		須恵質	
6	6	二戸市	長瀬C	鈴形土製品	A - 3 住居跡 埋土下層	○ ○ -	9世紀初頭（集落年代）	中実の模造鉢？	文献3
7	7		鈴形土製品	A - 3 住居跡 贴床内	× △ -				
8	8	門 松	鐸型土製品	B 2 h 6 住居跡	△ △ -	奈良時代	鐸型土師質土製品	文献4	
9	9	二戸市	淨法寺城	土 鉢	遺構外 表土	○ △ ×	古代		文献5
10	10		土 鉢	F II - 1 住居跡 埋土	△ △ ×	平安時代			
11	11		不明土製品	遺構外	○ △ ×			文献6	
12	12		不明土製品	遺構外	○ △ ×		縄文期の鐸型土製品か？		
13	13		不明土製品	遺構外	△ × ×				
14	14	矢巾町	徳丹城	土 鉢	S D133溝跡 2層	○ △ ×	9世紀		文献7
15	15	紫波町	渡 川		S I 41住居跡	○ △ ×	8世紀代		文献8
16	16		杉ノ上II	土 鉢	B J 56住居跡 3c層（焼失時堆積層）	× △ ×	9世紀前半	ロクロピット付設住居	文献9
17	17		西田東	土 鉢	II G - 1 住居跡 住居内土坑	× ○ -	9世紀第4四半期～10世紀前葉	縄部なし	文献10
18	18		稻村II	鈴形土製品	第23号住居跡（II F 1 j 住）床面	○ ○ -	8世紀前半	中実の模造鉢？	文献11
19	19	北上市	新 平	土 鉢	土器廃棄場 包含層	△ △ ×	10世紀中葉～後葉		
20	20			土 鉢		○ △ ×			
21	21			土 鉢		× △ ×			
22	22			土 鉢		× △ ×			
23	23			土 鉢		× △ ×			
24	24			土 鉢		× △ ×			
25	25	奥州市	高前田	不明	3号工房	？ ? ?	9世紀後半～10世紀前半	ロクロピット付設住居	文献12
26	26		相 去	不明		？ ? ?	10世紀後半～11世紀前半	ロクロピット付設住居	文献13
27	27		谷 地	土 鉢		○ △ ×	9世紀後半～10世紀初頭		文献14
28	28		薦ノ木			○ ○ ×	平安時代	ロクロピット付設	
29	29		瀬谷子			△ △ ×	平安時代		文献15
30	30	江刺区	4号工房		△ △ ×	平安時代			
31	31		6号住居跡		○ △ ×	平安時代			
32	32		鶴羽衣	土 鉢	D C 50住居跡	○ △ ○	11～12世紀頃	土玉と共に	文献14
33	33		鴻ノ巣館	土 鉢	遺構外	○ △ ×	平安時代		文献16
34	34		下惣田	土 製品	S I 105住居跡	○ △ ×	9世紀前葉～10世紀前葉		文献17
35	35	奥州市	松川下	土 鉢	S D 202溝跡	○ ○ ○	9世紀後半～10世紀後半		文献18
36	36		明後沢遺跡群	土 鉢	S K I 01堅穴状遺構	○ △ ×	平安時代		文献19
37	37			土 鉢	S K I 01堅穴状遺構	○ △ ×			
38	38			土 鉢？	S I 01堅穴状住居 埋土	○ △ ×	平安時代	縄部 穿孔なし	文献20
39	39		石 田	袖珍土器	D d 03堅穴状住居跡	○ ○ -	奈良時代後半	中実の模造鉢？土錐として報告	文献21
40	40	水沢区	林前南館	土 鉢	S X 0153井戸跡 埋土	○ ○ ×	平安時代		文献22
41	41		矢崎 I	土 鉢	溝跡 底面	○ △ ×	9世紀前半～半ば		文献23
42	42		志羅山	土 鉢？	遺構外	× △ ×	不明		文献24
43	43			土 鉢？		× △ ×	不明		

金属鉢

地図番号	挿図番号	市町村名	遺跡名	報告遺物名	出土位置	残存部※	時 期	備 考	文献
27	44	二戸市	駒焼場	鉄 鉢	III A - 8 住居跡 床面	○ ○ ?	平安時代中期～後期		文献25
28	45	一戸町	上 野	銅 鉢	A F 54堅穴状住居跡 カマド脇土坑中	○ ○ ○	平安時代前半		文献26
29	46	奥州市水沢区	胆沢城	銅 鉢	S B 3147 柱穴⑤ 挖り方埋土	○ ○ ○			文献27
30	47	平泉町	泉 屋	鉄製品	6号土坑	○ × ×	14世紀中頃？		文献28
31	48	柳之御所		鉄 鉢	23次 S K 83（便所遺構）	○ ○ ?	～12世紀後半	チュウ木、ウリ科種子出土	文献29

文献 1 財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1999 「大日向II 遺跡発掘調査報告書」 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財発掘調査報告書 第273集

文献 2 財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1988 「自角子久保VI 遺跡発掘調査報告書」 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財発掘調査報告書 第129集

文献 3 財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1988 「長瀬C 遺跡発掘調査報告書」 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財発掘調査報告書 第51集

文献 4 財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2002 「門松遺跡発掘調査報告書」 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財発掘調査報告書 第413集

文献 5 清法寺町教育委員会 1998 「清法寺城跡」 平成9年度町内遺跡詳細分布調査概報

文献 6 財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1988 「飛鳥台I 遺跡発掘調査報告書」 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財発掘調査報告書 第120集

文献 7 矢巾町教育委員会 1984 「徳丹城跡 昭和58年度発掘調査概報」

文献 8 矢巾町教育委員会 1986 「渡川遺跡現地説明会資料」

文献 9 岩手県教育委員会 1979 「東北新幹線関係埋蔵文化財調査報告書III」 岩手県文化財調査報告書 第35集

文献10 財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1995 「西田東遺跡発掘調査報告書」 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財発掘調査報告書 第221集

文献11 財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2001 「稻村II 遺跡発掘調査報告書」 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財発掘調査報告書 第348集

文献12 北上市教育委員会 1974 「高前田遺跡現地説明会資料」

文献13 北上市教育委員会 1973 「相去遺跡現地説明会資料」

文献14 岩手県教育委員会 1979 「東北新幹線関係埋蔵文化財調査報告書I」 岩手県文化財調査報告書 第33集

文献15 江刺市教育委員会 1971 「瀬谷子遺跡 第3次発掘調査報告書」

文献16 岩手県教育委員会 1980 「東北新幹線関係埋蔵文化財調査報告書V」 岩手県文化財調査報告書 第49集

文献17 江刺市教育委員会 2001 「下惣田遺跡発掘調査報告書」 岩手県江刺市埋蔵文化財発掘調査報告書 第29集

文献18 江刺市教育委員会 2000 「松川下遺跡発掘調査報告書」 岩手県江刺市埋蔵文化財発掘調査報告書 第22集

文献19 財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2004 「明後沢遺跡群第16次発掘調査報告書」 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財発掘調査報告書 第442集

文献20 財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2003 「明後沢遺跡群発掘調査報告書」 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財発掘調査報告書 第411集

文献21 岩手県教育委員会 1981 「東北自動車道関係埋蔵文化財調査報告書XII」 岩手県文化財調査報告書 第61集

文献22 財團法人水沢市埋蔵文化財調査センター 2003 「林前南館跡」 水沢市埋蔵文化財調査センター調査報告書 第16集

文献23 財團法人水沢市埋蔵文化財調査センター 2001 「矢崎I 遺跡発掘調査報告書」 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財発掘調査報告書 第372集

文献24 財團法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2001 「志羅山遺跡発掘調査報告書(第47・56・67・73・80次調査)」 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財発掘調査報告書 第352集

文献25 財團法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 「駒焼場遺跡発掘調査報告書」 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財発掘調査報告書 第133集

文献26 一戸町教育委員会 1987 「上野遺跡・一戸城跡」 一戸町文化財調査報告書 第18集

文献27 水沢市教育委員会 1998 「胆沢城跡-平成9年度発掘調査概報」

文献28 平泉町教育委員会 1994 「平泉遺跡群発掘調査報告書」 岩手県平泉町文化財調査報告書 第23集

文献29 財團法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1995 「柳之御所跡発掘調査報告書」 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財発掘調査報告書 第228集